

編集局日誌

2016・2・5

夢の種

文化部・右田雄二

鹿児島市の彫刻家楠元香代子さん(62)Ⅱ日展会員、熊本・崇城大学教授Ⅱの心に「夢の種」ができたのは、鹿児島大学2年生の時だった。

同大学で指導を受けた中村晋也さん(89)Ⅱ文化勲章受章者Ⅱは、フランス留学から帰ってきたばかり。ミケランジェロやロダンの作品の話や創作への真剣な姿勢に触れ、「世界が広がりわくわくした。作家を目指す決心がついた」と振り返る。

当時は女性作家が少なく、3年生になった楠元さんらは1974(昭和49)年にサン・ジャック女流彫刻会をつくり、展覧会を開いてきた。表現の苦悩や将来への不安など彫刻をやめようと考えたこともあったが「互いに支え合うことで今まで続けられた」という。同会は先月、発足40年を記念してパリでの作品展を実現した。帰国後は、再びパリで開催するのを新たな目標に据える。

同会には、学生を含む20〜70代の12人が所属する。楠元さんは「最近やっと自信が持てる作品ができるようになった。苦しかったけど今では夢を捨てなかった自分を褒めたい」。新しい種も含め、いろいろな花が鹿児島の彫刻界を今後さらに彩っていくと、期待している。